



Japanese History

日本史学専修

1854年、ペリー率いる黒船の威力に屈して日米和親条約を結び鎖国は終わった—この一見自明な事実を証明するには、数多くの史料を発掘し、さまざまな手続を経る必要があります。また、日米和親条約の締結を広く東アジアの中に位置づけることで、今までの理解とは違った側面が見えてくるかも知れません。

皆さんは、これまで専ら他人が書いたものによって歴史を学んできたはずで、大学では、自ら課題を設定し史料を集め、自らの方法で独自の結論を得ることが求められます。本専修では、このような基礎的能力を身に付けるため、各時代の演習・講義を用意しています。皆さんはそれらを学んだ上で、最終的には卒論という形で自己の見解を披露することになります。

研究室では、院生・学生が絶えず議論をたかかわせています。春と秋には恒例の研究室旅行があります。さまざまな場を通して大いに自分を磨いてください。

日本史は暗記科目でもロマンでもない

暗記の得意な君、歴史小説の好きな貴方、だから日本史をと思うと、ギャップが大きいかもしれません。「歴史的事実」とは何なのか、史料に向き合いながらじっくりと考えてみたい人にこそ、お勧めです。

自ら調べ考える力を養えば怖いものなし

皆さんが思っている「歴史的事実」は本当に正しいのか。すべては「疑う」ことから始まります。新たな課題を見つけ、史料にもとづいて自らの主張を説得的に論じる能力を育成することに重点をおきます。

<https://sites.google.com/site/osakauniversitynihonshi/>

教員

| | |
|----------|----------|
| 飯塚一幸 教授 | いづか・かずゆき |
| 川合 康 教授 | かわい・やすし |
| 市 大樹 教授 | いち・ひろき |
| 野村 玄 准教授 | のむら・げん |

何を学んでいるの？

古代史の考え方—古代史と現代社会—

この講義では、災害と復興、歴史教科書、陵墓、皇位継承、天皇号、日本国号、文字、その他さまざまな話題を取り上げながら、古代史が現代社会とも密接に関わっていることを明らかにします。

日本史上の根本問題—日本とは何か、天皇とは何か—

この授業では、天皇号の成立に関する学説を検討し、憲法に規定される天皇という称号の意味を考えます。歴史的に連続するのか、または断絶しているのか、双方の見方に配慮して多角的に講じます。

どんな授業があるの？

【講義題目】

平清盛と『平家物語』
明治期の地方政策と名望家

【演習題目】

『類聚三代格』・『令義解』・『七大寺巡礼私記』の講読
近世古文書の解読と史料の取り扱い

教員が選ぶ印象に残った卒業論文

室町幕府奉行人家の存在形態—一族や被官の活動から—

北山 航

足利義持期～義政期の中心的奉行人であった飯尾為種家を素材に、室町幕府奉行人家の存在形態を、一族や被官の活動から考察しました。訴訟の実務を、奉行人家の一族や被官が担っていた実態や、荘園領主が被官に依存度を強めていく様相を興味深く論じました。(選：川合 康 教授)

1920年代日本の対中国アヘン政策—山東省を中心に—

奥田 萌

近代日本は中国でのアヘンの販売や輸出に深く関わっていました。この論文は、第一次世界大戦後の山東省に焦点を絞り、日本のアヘン政策や中国側の動向を丹念に分析して、多くの日本人居留民がその売買に関与していた実態を明らかにしました。(選：飯塚一幸 教授)

【卒業論文題目】

エミシ移配政策の展開について
令制キサキの消滅と女御の登場
平安時代中後期における武士の存在形態
近世後期京都における遊女商売の基本構造
近世後期岡山藩における砂糖の生産と流通統制
第五回内国勸業博覧会と大阪市の都市改造
昭和七年陸軍特別大演習と都市大阪

日本史研究室はとてもアットホームな雰囲気、研究室構成員同士の仲が良いのが自慢です。先輩も後輩もみんな勉強熱心で、刺激を受けながら勉強することができます。学年の枠をこえた交流の機会もたくさんあります！ここではその一部を紹介します。

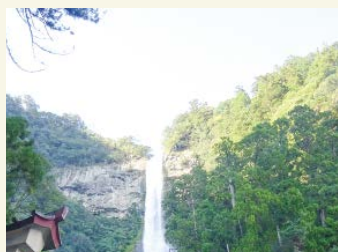
旅行

新入生歓迎旅行 毎年5月に行われる新入生が主役の旅行です。畿内の身近な史跡を日帰りですりまわります。有名な寺社から、普段は通過してしまうような史跡まで、実際に歩きながら見学します。2019年度は山科方面（琵琶湖疏水、毘沙門堂、山科本願寺、京都橘大学図書館など）へ行きました。2年生にとっては初めての大きな研究室行事であり、上級生・新入生どちらにとってもお互いに交流を深められる場となっています。

研究室旅行 10月に2泊3日で行われる研究室最大のイベント。2019年度は伊勢・和歌山方面（伊勢神宮、熊野本宮大社、熊野那智大社、和歌山県立博物館など）を巡りました。院生・学部生が協力して旅行委員会を結成し、学生主体で旅行を計画しています。見どころを詰め込んだ史跡見学ももちろんですが、学年の枠をこえて研究室構成員同士が交流を深めることができるのが、この旅行の醍醐味です。先生方ともたくさんお話できる絶好のチャンスですよ！



新入生歓迎旅行（東本願寺山科別院）



研究室旅行（那智の滝）

授業・例会

史料演習 先行研究で史料がどのように使用されてきたかを通して、研究の中で史料を使用する方法を学びます。教科書の中で見ていたような人物の日記や書簡を読むことは、彼らの新しい面を知ることができるようでとてもわくわくします。また、自分だけでは思いつかなかったアイデアが議論の中で生まれることも多く、史料と向き合うことで新たな見識が得られることを実感できる場でもあります。

古文書演習 くずし字の読み方を学ぶことに始まり、現物の史料整理を行う中で日本史学の研究に不可欠な史料との向き合い方を学びます。この授業では、本物の古文書にふれながら史料整理の方法を学ぶことができるのが特徴です。長期休暇中には学外で古文書を整理する合宿も開催されています。また、月に1回程度研究室が借り受けている史料を整理する会もあり、日本史研究室では古文書にふれる機会がたくさん用意されています。実際の史料にふれながら、過去へ「タイムスリップ」する感覚を味わってみてください。

研究室例会 毎年、外部から先生をお招きして講演をしていただく会です。日本史学を牽引してこられた先生方のお話を伺うことのできる、非常に貴重な機会です。専門とされる時代にかかわらず、歴史学そのものや研究の方法論、これまでの研究生活などについてのお話をお聞きする中で、歴史学の奥深さを感じることができます。



研究室例会（熊谷公男先生をお招きして）

勉強会

時代別勉強会 専門の時代についての知見を深めるため、学生・院生たちが自主的に勉強会を開いています。現在「のんびり古代史勉強会」、「さわやか中世史勉強会」、「近世史勉強会ありもだ」、「近現代史勉強会一考会」という4つの勉強会があり、それぞれが活発に活動をしています。勉強会に参加する中で、研究の進め方や史料・論文の読み方を学ぶことができます。自分の興味のある時代や分野を探るため、複数の勉強会に参加している2年生も多くなります。また、長期休暇を利用して毎年旅行へ行く勉強会もあります。

古文書勉強会 学生・院生が主体となり、古文書の読み方を勉強しています。授業では2年次からくずし字の読みを習い、3年次から本物の古文書を用いた演習が始まりますが、この勉強会では、辞書の引き方からゆっくり、くずし字を勉強できます。古文書は一朝一夕に読めるようになるものではありませんが、ある程度読めるようになれば博物館などの展示史料も今以上に面白くなり、歴史の世界にぐっと入り込めるようになります。

その他

文学部専修対抗ソフトボール大会 毎年春と秋に、研究室対抗のソフトボール大会を行っています。経験の有無に関わらず、みんなで楽しく優勝を目指します。2019年秋は、日本史研究室が優勝・準優勝を独占しました！普段勉強しているときとはちがった姿がみられるのも面白いところです。他専修の方とも距離を縮めることのできるよい機会となっています。